問題意識

国際比較調査を行うことにより、日本人の情報行動について国際比較（日本、中国、韓国、シンガポール、アメリカ）という観点から検討することを目的とした。

学ぶ

また調査会社保有の調査パネル登録者が特に諸外国において大都市圏に偏っていることから、シンガポール以外では特定都市圏（東京、北京、ソウル、ニューヨーク）の居住者を対象に調査が行われたことにも注意を促しておく必要がある。

本研究の研究概要にあたる調査内容には、大きく以下の内容を含んだ。

A) 「日本人の情報行動調査」と共通する「メディア利用」と「メディアイメージ（重要

性・信頼性認識）」に関する調査項目

B) 「オンラインメディアやオンラインサービスの利用」に関する調査項目

C) 生活時間・情報行動時間に関する調査項目

D) 社会意識に関する調査項目

本報告書での内容との対応では、A)に関する結果は第1 章および第2 章にまとめられて

いる。B)に関する結果は、第3〜5 章にまとめられている。C)に関する結果は第6 章にまとめられている。最後に、D)に関する結果は第7〜9 章にまとめられている。

調査方法

本研究では前述のとおり、日本、中国、韓国、シンガポール、アメリカの5 ヵ国でオン

ライン質問紙調査を実施した。調査はクロス・マーケティング社を通じて各国のオンライ

ン調査事業者の登録モニターに対して行われた。日本調査では東京、中国調査では北京、韓国調査ではソウル、アメリカ調査ではニューヨーク都市圏の居住者を調査対象者とした。

調査対象者の年齢は15〜69 歳としたが、中国（北京）のみ60 歳代のサンプル確保が困難であったことから、15〜59 歳を対象として調査を実施した。調査計画ではそれぞれの国の性別×年齢10 歳区分別（ 10 代のみ15〜19 歳）の人口分布に比例させてサンプルサイズを割り当てた（表0.1）。ただし、韓国調査では60 歳代女性のサンプルが計画に対して7 名不足し、50 歳代女性のセルで計画よりも7 名多く回収した。

木村2

「マルチメディア」とは、ある単一のメディアが、文字、音声、音楽、画像、動画など、複数の様相をもった情報を扱うという概念に対して、「ポリメディア」1)とは、複数のマルチメディア機器と多様なアナログメディアが生活空間に併存している状況を指す。

デジタルネットワーク技術の発展は、生活空間をさらに複合的、多元的にしている。現在の中高生は、ネット接続テレビで視聴者として番組に参加しながら、スマホのLINE、twitterでチャット、携帯ゲーム機でオンライン対戦、Wifi接続の携帯音楽プレイヤー（iPodなど）で音楽を流しつつ、PCのスカイプによるビデオ会議で学校の友人と課題を議論して、電子書籍とPCで資料を検索、閲覧する、といった情報行動が可能となるポリメディア環境に生活しているのである。

**エコーチェンバー現象** - マス・メディアやSNSなどにおける現象、「エコーチェンバー化」などとも。同じ意見の人だけが話し合っているうちにそれが正しいことだとみんなが信じてしまう現象。

